

特集3 愛知環境賞10年の歩み

～先駆的で効果的な環境技術等の優れた事例を表彰～

1 愛知環境賞について

愛知環境賞は、資源循環や環境負荷低減に関する優れた事例を表彰するとともに、広く紹介することによって、新しい生産スタイルや生活スタイルを文化として社会に根付かせ、資源循環型社会の形成を促進することを目的に創設され、平成26年で第10回目を迎えました。

この愛知環境賞は、県が「環境と経済が好循環するモノづくり県をめざして」を基本理念として平成16年9月に策定した「あいちエコタウンプラン」において、ゼロ・エミッション推進のため

の普及啓発事業の一つに位置づけたことが始まりで、第1回目の2005愛知環境賞は平成17年3月に表彰式が行われました。

平成24年10月には、あいちエコタウンプランを「環境と経済が好循環するモノづくり県のさらなる発展」を基本理念とする「新・あいちエコタウンプラン」に改訂しましたが、愛知環境賞を引き続き普及啓発事業に位置づけ、優れた取組事例を広く紹介するため、制度の充実及び効果的運用を行うこととしています。

【愛知環境賞の概要】

- 1 目的：資源循環や環境負荷低減に関する先駆的で効果的な＜技術・事業＞、＜活動・教育＞の事例を、企業、団体及びグループから募集し、優れた事例に対する表彰を行うとともに、広く紹介することによって、新しい生産スタイルや生活スタイルを文化として社会に根付かせ、資源循環型社会の形成を促進する。
- 2 主催：愛知県
- 3 共催：環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）※、中日新聞社
〔※ 環境パートナーシップ・CLUB：中部地区の産業界の環境オピニオンリーダーが中心となって、業種・業態の枠を超えて環境負荷低減活動等に関する研究、交流、実践及び情報発信を行うことを目的として設立された団体〕
- 4 応募資格：企業、団体、グループ
- 5 対象事例：省資源、省エネルギー、新エネルギー及び3R（リデュース：発生抑制・リユース：再使用・リサイクル：再生利用）など、資源循環や環境負荷低減に関する先駆的で効果的な＜技術・事業＞及び＜活動・教育＞とする。
- 6 賞の種類：金賞、銀賞、銅賞、中日新聞社賞、名古屋市長賞、優秀賞



2014 金賞（東海旅客鉄道株式会社）



2014 金賞（ブラザー工業株式会社）

2 愛知環境賞の歩み

2005年の第1回金賞を受賞したトヨタ自動車株式会社のプリウスは、世界トップレベルの優れた環境性能を備え、今日まで世界のハイブリッド車をリードし続けています。また、2014年の第10回金賞を受賞した東海旅客鉄道株式会社の新型新幹線N700Aは、使用電力量削減などエネルギー削減に大きく貢献したとして高い評価を受けました。

このように、愛知県では高いレベルの環境技術や環境活動が毎年開発・実施されており、こうした優れた技術や活動が社会に広まることを願い、愛知環境賞の表彰を行っています。

当初は、金賞、銀賞、銅賞及び優秀賞の4種類でしたが、2006年には中日新聞社賞と名古屋市長賞を新たに設け、さらに2007年からは表彰対象となる分野に「教育」を加え、充実を図りました。

愛知県には産業技術が集積していることから、技術・事業に関する受賞事例が多いことが特徴です。一方、活動・教育については、中日新聞社賞の受賞事例を中心に創意工夫を凝らした事例が

数多く表彰されています。

また、単独の活動だけでなく、2008年に銀賞を受賞した「企業連携による食品循環資源の再生利用事業」や、2014年に銀賞を受賞した「食品リサイクルループ」のように、事業者間の連携を伴う事例も高い評価を受けています。

10年目を迎えた2014年には、10年間の表彰事例をとりまとめた記念誌を刊行し、表彰式と合わせて、10周年を記念したパネルディスカッションを実施しました。パネルディスカッションでは「環境の未来を語ろう！」をテーマに環境技術を通じた未来について議論がなされ、環境技術の進化が今後も社会を持続的に発展させるカギであり、愛知県にはこうした技術の集積があること、そして、今後これらの技術を一層集積していくことの重要性が語られました。

これからも、愛知環境賞を活用して、環境技術の発展に貢献するとともに、愛知の環境技術や環境活動のレベルの高さを全国に発信していきます。

【2014 愛知環境賞 10周年記念】

パネルディスカッションの概要

- 1 開催日
平成26年2月19日（水）
- 2 場所
名古屋東急ホテル（名古屋市中区）
- 3 参加者
約380名
- 4 テーマ
「環境の未来を語ろう！」
- 5 コーディネーター
水尾 衣里 氏（名城大学教授）
- 6 パネリスト（五十音順）
飯尾 歩 氏（中日新聞社 論説委員）
大野 栄嗣 氏（トヨタ自動車株式会社 環境部環境室担当部長）
杉山 仁朗 氏（富士特殊紙業株式会社 代表取締役社長）
架谷 昌信 氏（愛知工業大学特任教授・名古屋大学名誉教授）
安井 至 氏（独立行政法人 製品評価技術基盤機構 理事長）



パネルディスカッション

(裏表紙)

(表紙)



愛知環境賞 10周年記念誌

監修・プロデュース

名城大学教授 水尾衣里

表紙 書

書道家 橋倉詠雪

なお、愛知環境賞の受賞事例を紹介するため、愛知県庁西庁舎1階の「あいち資源循環推進センター」横でパネルを展示しています。



受賞事例パネル展示

また、先導的・効果的な循環ビジネスの発掘・創出を図るために県が開催している「循環ビジネス創出会議」においても、県内企業の先導的な取組として、愛知環境賞受賞事例の現地見学会を開催しています。



受賞事例現地見学会

3 受賞者一覧

2005 愛知環境賞から2014 愛知環境賞までの受賞者の一覧は次表のとおりとなっています。受賞団体は、大企業から中小企業まで、業種も製造業を中心に多業種にわたっています。

受賞者一覧

年	賞の種類	受賞団体名	技術・事業、活動・教育の名称
2005	金賞	トヨタ自動車株式会社	◆ハイブリッド自動車「プリウス」
	金賞	新日本製鐵株式会社名古屋製鐵所	◆中部における使用済み容器包装プラスチックのリサイクル事業
	銅賞	愛知県陶磁器工業協同組合「Re瀬戸」プロダクト	◆●「Re瀬戸」プロダクト
	[優秀賞受賞団体名] ◆中部リサイクル株式会社、◆東邦ガス株式会社・大阪ガス株式会社・西部ガス株式会社・株式会社ノーリツ・株式会社長府製作所・本田技研工業株式会社、◆株式会社INAX、◆有限会社三和建材、●特定非営利活動法人稲沢ゴミ協議会、●未来創造・21せと市民の会		
2006	金賞	中部電力株式会社	◆世界最高水準の環境調和型電力供給への挑戦と環境文化の発信
	金賞	日本ガイシ株式会社、大成建設株式会社、UFJセントラルリース株式会社、株式会社テクノ中部、中部鋼板株式会社、愛知県田原市	◆一般可燃ごみからの炭化物製造・リサイクル事業
	銀賞	大同原料サービス株式会社 大同特殊鋼株式会社知多工場	◆汚泥・ばいじんに含まれるニッケル等のリサイクル事業
	銅賞	三幸毛糸紡績株式会社 名古屋港木材倉庫株式会社	◆木質系廃棄物を活用したフレキシブルマット・エンボスマット
	中日新聞社賞	株式会社デンソー	●デンソー環境教育プログラム「ECOレンジャー21」
	名古屋市長賞	アサダ株式会社	◆フロン回収・再生・破壊装置の市場開拓及び技術開発における先駆的取り組み
	[優秀賞受賞団体名] ◆株式会社アイエヌビプランニング、◆アイシン精機株式会社西尾工場、◆株式会社INAX、●環境劇団いるか、◆トヨキン株式会社・トヨキンオートプラザ株式会社・株式会社豊田中央研究所・株式会社明電舎、◆名古屋コンテナ株式会社		
2007	金賞	中部国際空港株式会社	◆●世界トップクラスの環境配慮空港セントレア
	銀賞	株式会社三進製作所	◆資源化センターシステム
	銅賞	ワシントンホテル株式会社	◆●「地球のためにできることひとつずつ」をテーマとした環境実践ホテルの取り組み
	中日新聞社賞	あま広域環境学習グループ エコきっず調査隊事務局	●あま広域環境学習グループ「エコきっず調査隊」
	名古屋市長賞	丸福株式会社	◆水性フレキソ印刷事業
[優秀賞受賞団体名] ◆●愛知県古紙協同組合、◆株式会社シロキ・バッテリーバンクシステムズ株式会社、●株式会社すぎた、●特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク、◆株式会社トーエネック、◆株式会社ノリタケリサイクルセンター、◆株式会社山田組			

凡例 ◆:技術・事業 ●:活動・教育

年	賞の種類	受賞団体名	技術・事業、活動・教育の名称
2008	金賞	株式会社デンソー	◆クルマとクルマ社会を支える環境技術の開発・普及
	銀賞	有限責任中間法人循環資源再生利用ネットワーク、有限会社ロッセ農場	◆企業連携による食品循環資源を中心にした再生利用事業
	銅賞	高浜工業株式会社	◆「廃粘土瓦の50%再利用」技術による瓦生産の省資源・リサイクル事業
	中日新聞社賞	なごや環境大学	◆●なごや環境大学
	名古屋市長賞	瀬戸製土株式会社	◆未活用資源を用いた3Rに貢献するバイオマス食器類の製造事業
	[優秀賞受賞団体名] ●特定非営利活動法人アスクネット、◆中部森林開発研究会、◆東和不動産株式会社・トヨタ自動車株式会社・株式会社毎日新聞社、●名古屋大学経済学研究科・名古屋大学エネルギーマネジメント研究・検討会、◆日之出株式会社、◆ヤハギ道路株式会社		
2009	金賞	東和不動産株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社毎日新聞社	●ミッドランドスクエアの環境配慮
	金賞	カゴメ株式会社	●「自然を、おいしく、楽しく。」食の安心・安全と環境に調和した取り組み
	銀賞	株式会社アイ・アンド・ティー	◆空気圧洩れ検知器「ソニックキャッチャー」
	銅賞	株式会社豊田自動織機	◆地球温暖化防止に貢献するロータリーバルブ式コンプレッサ
	中日新聞社賞	特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会	●リサイクルステーション
	名古屋市長賞	豊田ケミカルエンジニアリング株式会社	◆樹脂メッキ部品の100%マテリアルリサイクルシステム
[優秀賞受賞団体名] ◆愛知県遊技業協同組合、●栄光八事幼稚園、●東海市加木屋中学校区、◆小島プレス工業株式会社、◆シーピーセンター株式会社、◆大同エコメット株式会社・中澤建設株式会社			
2010	金賞	株式会社 INAX	◆サステナブル(持続可能)な社会の実現に向けた「つくる」「つかう」「もどす」場面でのイノベーション
	金賞	コカ・コーラセントラルジャパン株式会社 日本コカ・コーラ株式会社	◆「い・ろ・は・す(I LOHAS)」(天然水)の国内最軽量(12g)PETボトル(520ml)
	銀賞	リンナイ株式会社	◆潜熱回収給湯器をはじめとする高効率燃焼機器・システムのグローバルな事業展開
	銅賞	フジBC技研株式会社	◆金属加工業界での生産性向上と環境対策を両立するセミドライ加工法
	中日新聞社賞	株式会社 加藤建設 学戸ホテルの会	●水質浄化技術を活用したCSR活動とホテルによる地域コミュニケーション
	名古屋市長賞	株式会社エコ・テクノロジー	◆世界初高効率トルネード型風力発電装置の開発
[優秀賞受賞団体名] ●愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター、●とよたエコライフ倶楽部、●名古屋学院大学、◆株式会社グリーンアローズ中部、◆株式会社タワダ、◆株式会社ハウスイ・株式会社加藤組、◆株式会社山越			

凡例 ◆:技術・事業 ●:活動・教育

年	賞の種類	受賞団体名	技術・事業、活動・教育の名称
2011	金 賞	三菱自動車工業株式会社技術センター岡崎地区	◆新世代電気自動車「i-MiEV」
	金 賞	株式会社富士金属、株式会社大弘	◆省エネ保持炉導入でCO ₂ 排出量・消費電力を60%削減
	銀 賞	フジクリーン工業株式会社	◆省スペースと省エネルギーで水環境を改善する環境配慮型浄化槽の開発
	銅 賞	ティビーアール株式会社	◆水中のレアメタルや有害物質等を吸着するモール状繊維捕集材
	銅 賞	株式会社高木化学研究所 豊橋技術科学大学環境・生命工学系竹市研究室	◆廃ペットボトルを原料とした、混練紡糸技術により省資源・省エネを実現する自動車用着色難燃繊維の実用化
	中日新聞社賞	阿部建設株式会社	●愛知県産材で建設したモデルハウスのゼロエミッション化と普及啓蒙活動
	名古屋市長賞	株式会社フジキカイ	◆世界初、包装機械の省資源・省エネルギー化～センサーの一元化とシール加熱部のIH化～
[優秀賞受賞団体名] ●株式会社ナゴヤキャッスル、●小島プレス工業株式会社、●一般社団法人泥土リサイクル協会、◆ゼネラルヒートポンプ工業株式会社、◆株式会社鶴弥、◆愛知時計電機株式会社			
2012	金 賞	富士特殊紙業株式会社	◆人と環境にやさしい水性グラビア印刷
	金 賞	新日本製鐵株式会社名古屋製鐵所	◆一貫製鐵所ゼロエミッション化に向けた総合イノベーション事業
	銀 賞	株式会社加藤建設	●エコミーティング活動～地域に頼られる建設会社をめざして～
	銅 賞	トヨタ紡織株式会社	◆種子開発から製品化までのケナフ事業構築による環境に配慮した自動車部品の開発・普及
	銅 賞	オーエスジー株式会社	◆高速・高能率・長寿命を達成したXパフォーマー転造タップ
	中日新聞社賞	虹のとびら	●表浜BLUE WALK ～50km、10日間の海岸清掃～
	名古屋市長賞	株式会社P・C・Gテクニカ	◆ビル・マンションの老朽排水管更生(再生)事業
[優秀賞受賞団体名] ◆ユケン工業株式会社、◆株式会社アンレット、◆いその株式会社、◆協和工業株式会社			
2013	金 賞	東邦ガス株式会社	◆環境調和型社会の実現に向けた取り組み～お客さまや地域社会とともに～
	銀 賞	株式会社豊田自動織機	◆人と環境にやさしい自動車エアコン用電動コンプレッサーシリーズの技術開発
	銀 賞	KTX株式会社	◆省エネ生産工法を実現する世界初の進化した電気鋳造金型の開発
	銅 賞	株式会社加藤製作所	◆軽い！安い！クリーン！な環境配慮型革新的鋳造技術「減圧凍結システム」による薄肉、軽量化青銅鋳物の製造
	中日新聞社賞	株式会社チームエコラボ	●中小企業参加型エコ事業プラットフォーム構築活動
	名古屋市長賞	株式会社アビツ	◆自動車シュレッダーダスト(ASR)を有効利用した製鋼副資材の製造
[優秀賞受賞団体名] ●命をつなぐPROJECT学生実行委員会始め17団体、◆株式会社ディビーエス、◆新東工業株式会社、◆化成工業株式会社、◆メタウォーター株式会社・中部電力株式会社、◆パナソニックエコシステムズ株式会社、◆木村メタル産業株式会社			

凡例 ◆:技術・事業 ●:活動・教育

年	賞の種類	受賞団体名	技術・事業、活動・教育の名称
2014	金賞	東海旅客鉄道株式会社	<p>◆高い環境性能を実現した省エネ型新幹線車両N700Aの開発</p> <p>東海道新幹線の車種別電力消費量の比較 (東京～新大阪下りを最高速度270km/hで走行した場合のシミュレーション)</p>
	金賞	ブラザー工業株式会社	<p>◆環境スローガン「Brother Earth」のもと、グローバルな地球環境配慮への取り組み</p> <p>環境情報システムの概要</p>
	銀賞	ユニー株式会社	<p>●食品リサイクルループは命をつなぐ環</p> <p>食品リサイクルループ</p>
	銅賞	株式会社オプトン	◆効果的に環境負荷を抑制するECO油圧駆動源
	中日新聞社賞	刈谷市立小垣江東小学校	●愛Loveプロジェクト＝緑と地域の教育力を活かした命の教育＝
	中日新聞社賞	学校法人中部大学	●学校法人中部大学のESD(持続可能な発展のための教育)活動
	名古屋市長賞	株式会社川本製作所	◆超省エネ 次世代給水ユニット「ポンパーKFE形」
	[優秀賞受賞団体名]		

凡例 ◆:技術・事業 ●:活動・教育

4 受賞者へのアンケート結果

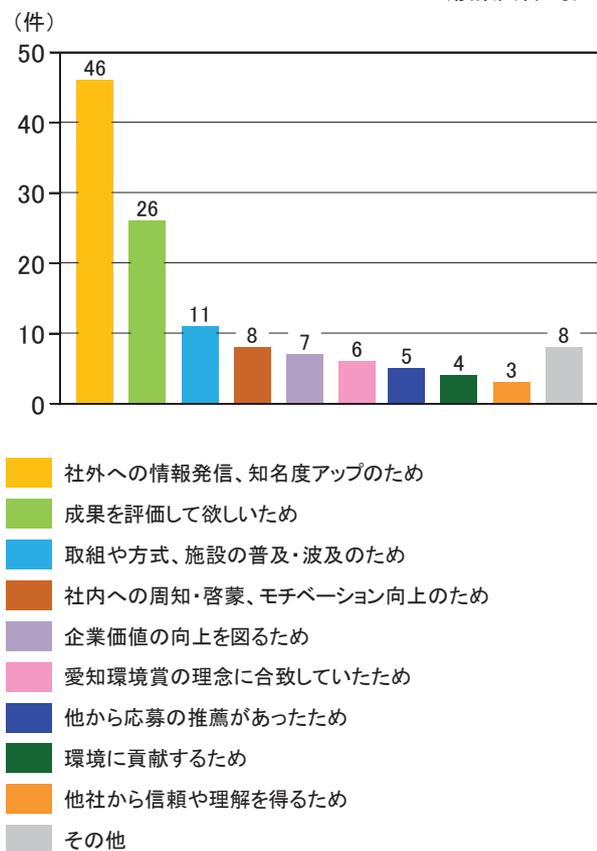
10周年を契機にこれまでの表彰事業の検証と今後の愛知環境賞のあり方を検討するため、平成25年6月に過去の受賞者106者に対して、応募の目的や受賞後の反響等についてアンケートを実施しました（回答数104者・回答率98%）。

（1）愛知環境賞への応募の目的

「社外への情報発信、知名度アップのため」が46件と最も多く、次に「成果を評価して欲しいため」の回答が26件あり、知名度の向上や社会的な認知を期待していることがうかがえます。

愛知環境賞への応募の目的

（複数回答可）



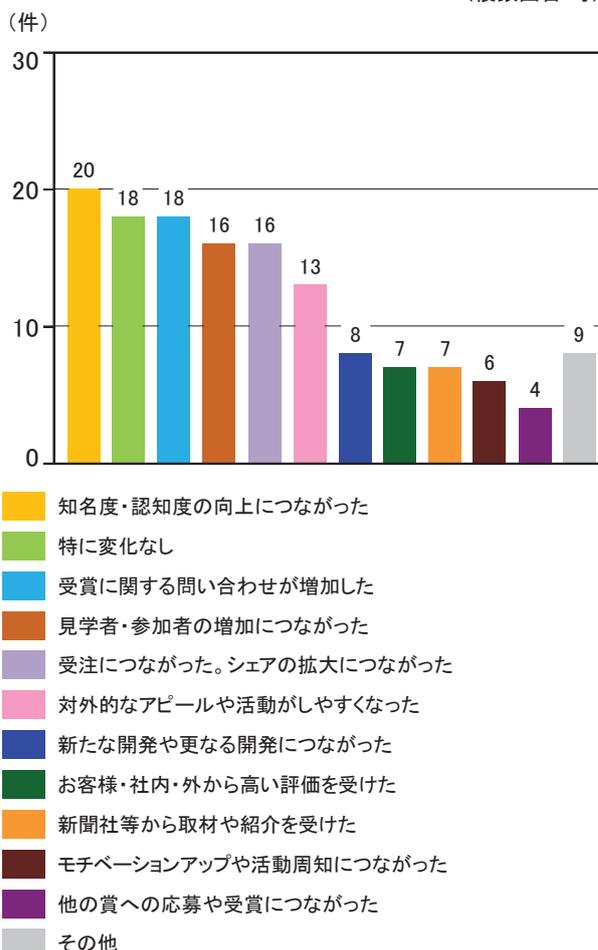
（2）受賞後の反響・成果

回答の上位の「知名度・認知度の向上につながった」、「受賞に関する問い合わせが増加した」、「見学者・参加者の増加につながった」、「受注につながった。シェアの拡大につながった」が全回答の約半数を占め、いずれも愛知環境賞の効果として期待している社会的な広まりに関するものでした。

また、「対外的なアピールや活動がしやすくなった」、「新たな開発につながった」という回答もありました。

受賞後の反響・成果

（複数回答可）



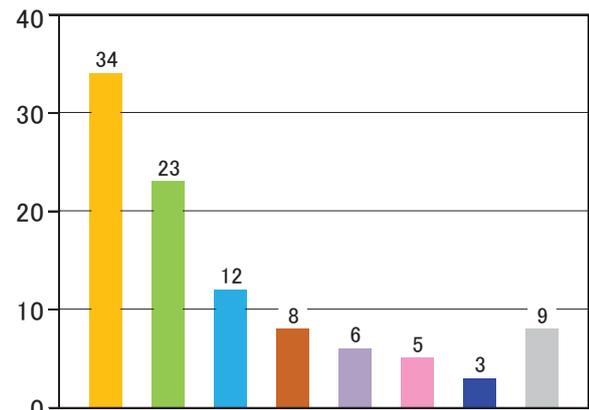
（3）社内（団体内）での環境への意識変化や環境への取組などの変化

回答のうち「意識啓発、モチベーションの向上等につながった」が最も多く、愛知環境賞の受賞が応募者内部の意識の変化を促していることを示しています。

また、愛知環境賞の受賞を機に「これまで以上に技術開発に取り組むようになった」といった、企業の技術開発が進展した受賞者もありました。

社内(団体内)での環境への意識変化や環境への取組などの変化

(件) (複数回答可)



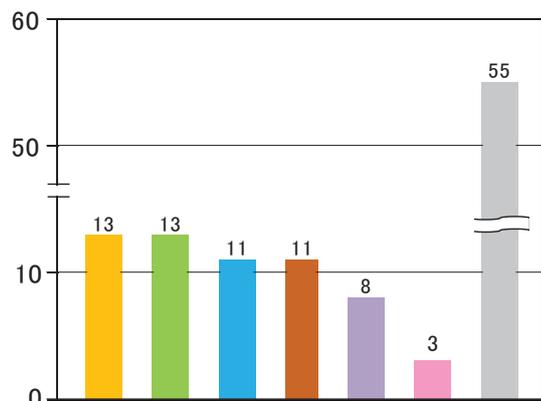
- 意識啓発、モチベーションの向上等につながった
- 特に変化なし
- これまで以上に技術開発等に取り組むようになった
- 次への励みとなった。自信を持って取り組めるようになった
- 経営層の認識・理解や従業員の環境マインド向上につながった
- 参加者の増加につながった
- 環境や環境技術、活動の意義などを再認識することができた
- その他

(4) 今後、愛知環境賞がどうあるべきか
(改善点や要望)

回答のうち「認知度の向上。対外的なPR」と「賞の継続」がそれぞれ13件と最も多く、認知度の向上と継続した表彰事業の実施を求める受賞者が多いことがうかがえます。また、「受賞後の更なる支援」を求める回答も11件ありました。

今後、愛知環境賞がどうあるべきか(改善点や要望)

(件) (複数回答可)



- 認知度の向上。対外的なPR
- 賞の継続
- このままでよい。特に意見なし
- 受賞後の更なる支援
- テーマ別や分野別の表彰
- 受賞者による意見交換会等の開催
- その他

5 今後に向けて

この10年、愛知万博や生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催により県民の環境意識が高まる一方で、世界的な経済危機や国のエネルギー政策の見直しなどの大きな社会情勢の変化がありました。

かつては、生産活動や消費活動などの経済活動と環境活動は対立すると考えられる傾向がありましたが、近年はエコカーや省エネ家電など、「環境にやさしいこと」と「経済性」の両立がみられるようになってきました。愛知環境賞は、こうした「環境と経済の好循環」のために産・学・行政が取り組んできた「協働」の象徴とも言えます。

また、技術や事業だけでなく、活動や教育といった分野においても、優れた受賞事例が増えていることから、企業や団体の環境意識が高まり、環境活動が活発化していることがうかがえます。

10周年のアンケート結果からは、受賞による効果や環境への意識変化などについて多数の肯定的な評価を得ていますが、一方で、愛知環境賞の認知度向上についての要望なども多いことから、更なるPRの充実を図っていきます。

今後も、先駆的で効果的なく技術・事業>や独創的で協働可能性の高い<活動・教育>の取組の拡大をより一層図り、賞の価値を高めるとともに広く内外に発信することにより、持続可能な社会づくりに寄与するよう進めてまいります。